

## 避難したら戻るな！

2024年4月



図1. 食品加工工場から避難した従業員

2021年1月28日、ジョージア州 Gainesville の食品加工施設内にある浸漬式フリーザーから液体窒素が溢れた。従業員6名が死亡、4名が負傷した。メンテナンス作業員がフリーザーのトラブル対応をしているときに漏洩が始まった。液体窒素は強制換気のない部屋で漏洩し、蒸発して蓄積した。フリーザーのトラブル対応をしていた2名のメンテナンス作業員が窒素蒸気により窒息死した。

運転員の一人がメンテナンス作業員を探しに来て、高さ1.2メートルの蒸気雲が部屋を満たしているのを見つけるまで、液体窒素は制御されないまま30～60分間放出され続けた。この運転員が事故を管理者に報告したことにより、管理者は避難を開始させた。建屋全体で避難している間、管理者を含むその他の従業員の少なくとも14名が、冷凍室を調査したり、同僚を救出しようとして事故に対応した。その結果さらに4名の従業員が窒息死した。その他、従業員3名と消防士1名が酸欠症状で手当てを受けた。

詳細はCSB報告書 No. 2021-03-I-GAを参照。

## 知っていますか

- 有害なガスを貯蔵、処理、または副生成物として発生する場所はガスへの暴露防止のために換気しなければならない。
- そのガス用に設計されたガス検知・アラームシステムを設置し、その区域を監視し、高レベルになった場合は人々に通知しなければならない。
- このような場所やその近くで作業する人は、高濃度の有害ガスを検知して警告することができる個人用ガスモニターを着用しなければならない。
- 有害ガスに関連した死亡事故の多くは、有毒または酸素欠乏の雰囲気の中で同僚を救助しようとした時に起っている。適切な許可、準備、呼吸器具なしに潜在的に危険な空間に入ってはならない。
- 避難アラームは、重大な事態が発生したことを知らせるものである。従業員、訪問者、請負業者には事業所の安全説明の際に適切な対応を伝えなければならない。

## あなたにできること

- 窒素やその他の有害なガスがどこで使用されているかを知ること。配管開放部や圧力開放口など潜在的な放出箇所を見つけたら、キャップをしたり適切に排出するように作業を依頼すること。
- 有害ガスが存在する場所で作業する場合は、そこで使用されている有害ガス検知システムの警報を知っておくこと。
- ガス検知の避難警報が鳴ったら、様子を見たり調べたりせずに、直ちにその区域から避難すること。適切な訓練を受け、適切なPPE（保護具）を装着した人しか、その区域が安全になるまで調査を行うことはできない。
- 危険区域で作業している訪問者や請負業者がいたら、彼らが安全な避難方法を知っていることを確認すること。
- 一旦指定された安全区域に避難したら、そこに留まること！その場を離れると、致死量の有毒物質にさらされる恐れがある。
- 「避難解除」が宣言された後でなければ、元の区域に安全に戻ることはできない。

**緊急避難手順を知り、それに従うこと！**